

教育センター通信

ほど
火床の火の心を紡ぐ

第8号（通算第39号）
平成29年3月17日
三条市小中一貫教育推進課
教育センター 発行



中学校生徒会リーダー研修「勇志塾」
ワークショップ研修の様子
(2月18日：中小企業大学校)

「1円玉貯金」を積み重ねる

教育センター 指導主事 土佐 和久

「教育は、毎日1円玉を貯金していくようなもの。」私はそんなふうに考えています。

日々の子どもの成長は見えにくいものですが、振り返ってみると大きく成長しているものです。ただし、教育の貯金はお金の貯金とは少し違うようです。何もしなければ少しずつ減っていく貯金です。貯金をしたつもりでも、ちょっとした行き違いから大切な財産がなくなってしまうこともあります。教育は見えにくい財産だからこそ、そうした怖さもあります。

以前、不登校のカンファレンスの場で、あるカウンセラーの先生がこうおっしゃっていました。「なかなか成果が出ないと感じるケースの子どもや保護者であっても、働きかけを続ければ必ず毎日ちよつとずつ成長していきますよ。あまりに少しずつなので、変容が見えないだけです。」

困難なケースでしたが、私が知りうる2年間の間に、担任やサポートする教職員の地道な働きかけによって、子どもは少しずつよい状態になっていきました。なにより保護者との信頼関係を築くことができたこと（これも簡単なことではありませんでした）が、振り返ってみると大きな財産となりました。今思えば、着実に貯金できた要因は、教職員集団の前向きな気持ちとサポートし合うチームワークのよさだったように思います。

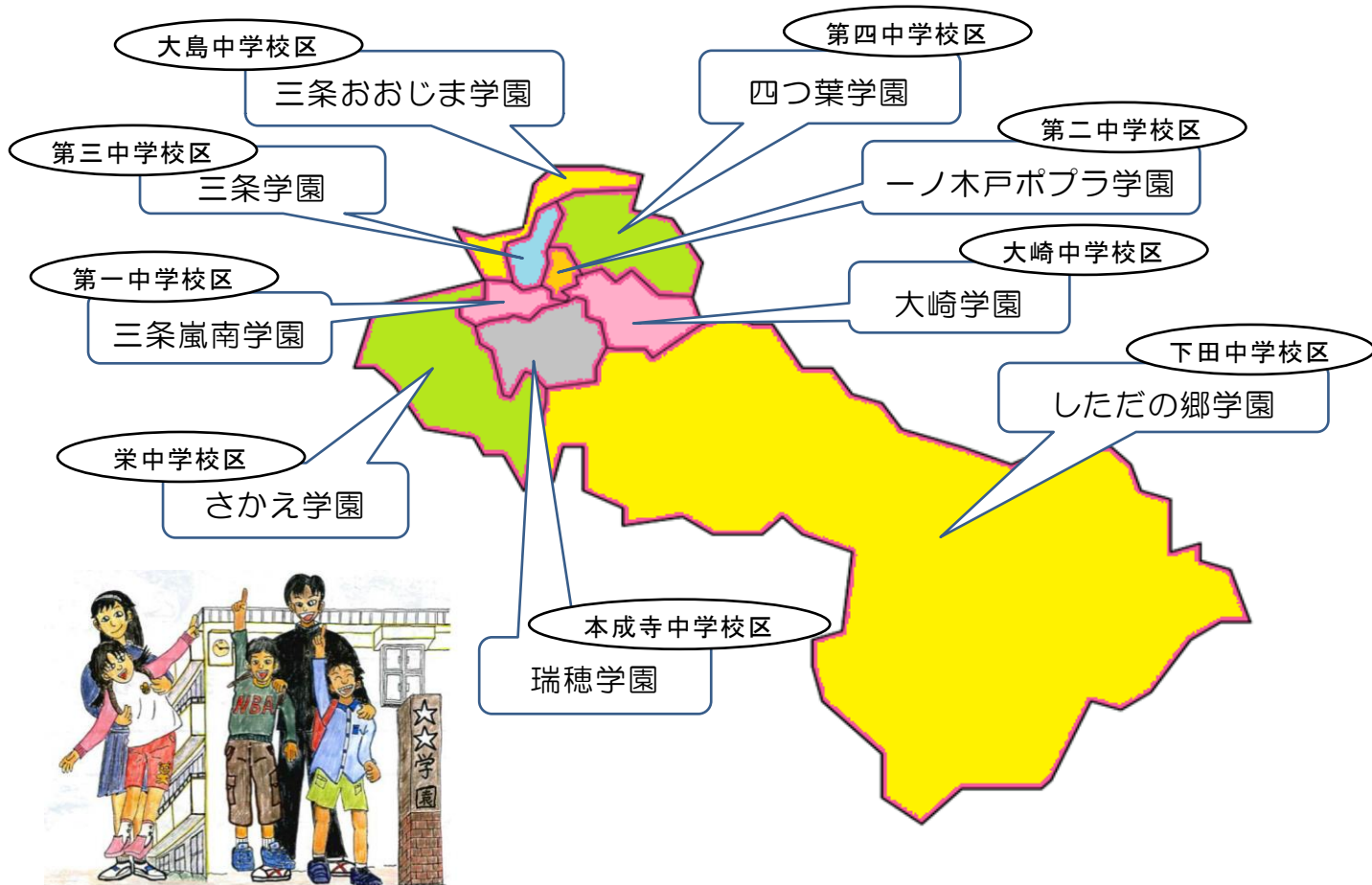
さて、三条市で取り組んできた小中一貫教育は、全面実施からまもなく4年を終えようとしています。これまで現場の先生方が少しずつ貯金をしてきた小中一貫教育に、多くの先生方が成果や手応えを感じていることを学校訪問でお聞かせいただいたり、実際に子どもや先生方のすばらしい姿として目の当たりにしたりします。私たちにとってはこの上ない喜びです。

冒頭でも書いたように何もしなければ貯金は気付かないうちに減っていきます。毎年約1/5の先生方が市外へ異動される三条市にあって、これからも着実に貯金をし続けられる三条市の小中一貫教育でありたいと考えます。先生方がこれまで積み重ねてこられたことを大切に、そしてこれからの発展や成長を信じ、チームワークよく教育実践を積み重ねていけるように、私たちはこれからもサポートを続けていきたいと思ひます。

学 園 呼 称 が 決 ま り ま し た。

平成29年4月からすべての学校が併設型小学校・中学校へ移行するにあたり、同じ教育目標に向かって、9年間の一貫した教育を行っていることを広く周知し、各小中学校の児童生徒、教職員、地域・保護者の皆様の一体感をさらに醸成するため、学園呼称を選定していただきました。

下記のように、各中学校区で願いや思いを込めたすてきな呼称を考えていただきました。感謝申し上げます。新年度から、小中一貫教育の推進シンボルとして、これらの学園呼称を各中学校区でご活用いただきますようよろしくお願いいたします。



市内の小学校、中学校と学園呼称一覧

小学校	中学校	小中一貫教育校※
嵐南小学校	第一中学校	三条嵐南学園
一ノ木戸小学校	第二中学校	一ノ木戸ポプラ学園
裏館小学校及び上林小学校	第三中学校	三条学園
井栗小学校、旭小学校及び保内小学校	第四中学校	四つ葉学園
西鱈田小学校及び月岡小学校	本成寺中学校	瑞穂学園
大崎小学校	大崎中学校	大崎学園
大島小学校及び須頃小学校	大島中学校	三条おおじま学園
栄中央小学校、栄北小学校及び大面小学校	栄中学校	さかえ学園
長沢小学校、笹岡小学校、大浦小学校、森町小学校及び飯田小学校	下田中学校	ただの郷学園

※中学校区内の全ての小学校・中学校を9年間の小中一貫教育を行う一つの学校であるという意味で小中一貫教育校とし、表にある学園呼称を使います。これまで〇〇中学校区と表記してきた活動等は〇〇学園という表記を使用していくことになります。

A先生のビフォー・アフター

教育センター指導主事 小杉 洋一

昨年秋、市内中学校のA先生が授業研究を行い、私は準備の段階から関わりました。授業研究の概要は次のとおりです。

研究内容：生徒が課題意識をもつための手立て
 学年・教科：中学1年・数学
 単元：比例と反比例
 本時のねらい： x の変域が負の数の場合、比例定数が負の数の場合でも、2つの数量が反比例であるかを判断することができる。

私は、A先生が指導案を完成させるまでの過程で何回か助言しました。A先生は、私が助言をする、自分で考えたり同僚の先生と相談したりして指導案を修正しました。1か月のやりとりを経て、指導案が変わりました。以下に、本時展開の導入部分をビフォー・アフターで紹介します。

＜ビフォー（10月の初稿）＞

教師の働きかけ(T)と予想される生徒の反応(S)

T：前の時間に学習した反比例にはどんな特徴がありましたか。

S： $y=a/x$ の式で表される。

S： x の値が2倍、3倍…になると、 y の値は1/2倍、1/3倍…になる。

S： xy が一定になる。

T：今日の課題は「2つの数量の関係が反比例かどうか判断できる」です。

T：表を見せるので、 x と y が反比例かどうか判断してみましょう。(表を提示する。)

x	…	-5	-4	-3	-2	-1	…
y	…	-2.4	-3	-4	-6	-12	…

S：(以下、自力解決)

＜アフター（11月の最終稿）＞

教師の働きかけ(T)と予想される生徒の反応(S)

T：前の時間に学習した反比例にはどんな特徴がありましたか。

S： $y=a/x$ の式で表される。

S： x の値が2倍、3倍…になると、 y の値は1/2倍、1/3倍…になる。

S： xy が一定になる。

T：(表を提示する) x と y はどんな関係ですか。

x	…	-5	-4	-3	-2	-1	…
y	…	-2.4	-3	-4	-6	-12	…

S： x と y が負の数でも反比例になるのかな。

S：いや、反比例だよ。

T：ぱっと見ただけでは分からないよね。今日の課題は「2つの数量が反比例であるかどうか判断しよう」です。

S：(以下、自力解決)

ビフォーとアフターを比較すると、変化がいくつかあります。その中で私は、「課題の設定」と「表の提示」の順序が変わったことが一番大きいと思います。ビフォーでは課題が先に設定され、その後、表が提示されています。アフターでは矢印で示したように、その順序が逆になっています。

その他にも、次の変化が見られます。

- ・課題の文末が「できる」から「しよう」になった。
- ・提示した表に対する「予想される生徒の反応」が加えられた。
 また、「予想される生徒の反応」には、次の特徴が見られます。
- ・「知っていること」でなく、負の数でも反比例になるのかという「疑問」が見られる。
- ・「反比例かどうか疑問をもっている」「反比例と言い切っている」という、生徒同士の考えのズレが見られる。

アフターの導入部分での教師の役割をまとめてみると、「課題を語らず教材を提示し、生徒に語らせ、生徒の疑問や生徒同士の考えのズレを生かして課題を設定する」となります。

A先生はアフターの指導案を使って授業を行いました。授業を終えたA先生の「生徒が普段より主体的に学習に取り組んでいた」という一言が、私の心に残っています。

三条市では、「学ぶ意欲を高め、夢や希望に向かって努力する子ども」の育成を目指しています。そのためには、日々の授業づくりの中で、「学習問題(◎)のある授業」を心がけることが大切です。A先生の設定した課題は、学習問題(◎)と言えます。また、導入部分での教師の役割は、他の授業でも参考になりそうな気がします。

第17回小中一貫教育推進委員会 2月8日(水)10:00~(栄庁舎)

今年度最後の推進委員会がありました。「第16回の検討内容」「併設型小学校・中学校への移行に伴う学園呼称選定の進捗状況」についての報告の後、昨年12月に実施した「三条市小中一貫教育についてのアンケート」の集計・分析結果を基にした考察に、委員から質問・意見・要望をいただきました。

協議事項 平成28年度三条市共通の小中一貫教育に係る点検・評価アンケートの結果と考察について

○アンケートの評価について、8割ならよし、7割ならある程度よしというように一律に記されているが、設問内容の難易度が異なるのに一律にしてよいものか。また、資料の1番で「4割程度について考える」ということだが、今回の評価には全く反映されていないのはどうしてなのか。そして、ある項目について高くなったと言ったとき、同じ母体で考えなくてよいのか。

○課題に対してもう少し踏み込んで記述してもよいのではないか。

○「三条市の愛着の高まり」で、中3が非常に落ち込む。質問項目に「活動プラス愛着とか誇りとかをもっていますか」という項目があれば、中3の評価も上がると思う。

○三条の場合は、児童・生徒の自己有用感、自己肯定感の尺度がこのアンケートによるために中学生は一般より高く出やすく、小学生は低く出やすいということになるので、そのあたりのことを説明の文章の中に考えてもらいたい。

○今後、学校評価と小中一貫教育に特化した市のアンケートの評価との関連性を教育委員会で検討してほしい。また、29年度はこの形でいくということなので、30年度以降を見据えたアンケート評価の検討が29年度内に行われることを期待する。同時に教育委員会が主導した共通項目・共通指標の学校評価アンケート等も含めて検討してほしい。



★委員の皆様からいただきました意見等を踏まえて、学校評価と関連付けながら小中一貫教育の次のステージに見合った「点検評価」の在り方を考えていきます。

お疲れ様でした！ 授業力向上実践研修 23名の修了者

◆これまで以上に授業づくりや単元づくりについて考えた1年だった。様々な実践を行い、来年度以降に向けて多くのことを学ぶことができた。この1年で学んだことを生かし、実践を積み重ねていきたいと同時に、その他の教授方法や手立てを学び実践していきたい。

◆子どもたちが、学びたい！と思うために導入の工夫や掲示物、発問の工夫を考え、実践することができた。また、子どもたちにも学習の見通しをもたせることで、単元の最後までどのような学習で、どのようなことができるようになるか分かり、意欲を継続することができました。

◆多くの時間、教材研究を行ったことで、これまでの教材の捉え方と違う視点で捉えようとすることができた。それにより、生徒へのアプローチの仕方などに幅をもたせることができるようになった。

◆指導主事の先生に1対1で指導していただけたことで、授業の中身の指導はもちろんのこと、単元について一緒に深く考えたり、指導案や実践記録の書き方を細かく教えていただけたりと、学ぶことが非常にたくさんあった。

研修の目的をより明確にするために研修テーマ(Step1: **子どもの目が輝く授業づく** Step2: **学習意欲の向上を目指した授業改善**)を設定して取り組んだ今年度の「授業力向上実践研修」。5/10の「ガイダンス」を皮切りに4回の学習会と研究授業を経て、Step1受講者は「授業づくり実践記録」を、Step2受講者は「教育研究論文」を執筆し、今年度の研修が修了しました。ご理解・ご協力ありがとうございました。

◇主題を決める時に、どの教科で、どのようなことに取り組むのかを決めるのに苦しんだ。研修に参加するしないに関わらず、日頃から問題意識をもち、「こういう授業(取組)をしてみたい」ということを考えていく必要があると感じた。あらかじめ立てた主題・研究仮説と実際に行った実践とを関連づけることが難しかった。

◇実践やその成果と課題をまとめたことで、研究授業後の単元でも学びのつながりを意識して授業展開を考えたり、子どもの姿を通して実践を振り返ったりすることができた。

◇同年代の若手の教員と教科の授業内容や、研修の内容、レポートの検討等の意見交換を行えたことは、有意義な研修でした。他の研修ではないことでした。

◆Step1受講者(教職2~5年目) 評価大いに役立った(86.7%) やや役立った(13.3%)
◇Step2受講者(教職7~10年目) 評価大いに役立った(87.5%) やや役立った(12.5%)